

《専門科目》

科目名	子ども家庭支援論				
担当者氏名	大久保 淳子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

子どもの最善の利益を保障するために、保育者として、どのような家庭支援ができるのかについて概観する。そして、子育てにおける家庭支援の背景、ニーズに応じた多様な支援の展開、関係機関との連携などについて理解を深め、具体的な家庭支援の方法と技術を習得する。さらに、子どもと家庭を支える機関や人について学修する。

《授業の到達目標》

- ・現代社会における子育て環境の実態を踏まえた子育て支援の必要性を説明できる。
- ・子育てにおけるさまざまな課題に対する国の方針や施策について説明できる。
- ・子どもの貧困について、保育者としての支援の方法を説明することができる

《成績評価の方法》

小テスト(50%)、レポート(30%)、授業態度(20%)  
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省

《参考図書》

幼稚園教育要領解説 平成30年3月、文部科学省(著)  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月、内閣府(著)、文部科学省(著)、文科省(著)、厚生労働省(著)

《授業時間外学習》

- ・子育てに関する時事問題、新聞、ニュースに関心をもつ。
- ・提示されたレポート・課題を提出すること。

《課題に対するフィードバック等》

- ・小テストは実施後に解答を提示する。
- ・レポートはコメントを記載し適宜フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子ども家庭支援の意義と必要性	家庭の意義とその機能 事前学習：家庭の意義について考える。
2	子ども家庭支援の目的と機能	家庭の変容の背景と家庭生活を取り巻く社会的状況 事前学習：子どもを取り巻く社会的状況について考える。
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	子どもの健やかな育ちのための子育て支援施策 事前学習：現在の子育て支援施策について調べる。
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	子ども家庭支援における社会資源 事前学習：子ども家庭支援の社会資源について調べる。
5	保育の専門性を活かす子ども家庭支援の意義	子ども家庭支援における保育者の役割 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
6	保育の専門性を活かす子ども家庭支援の実践	児童虐待の実態とその対応 事前学習：「これって虐待？」資料を読む。
7	保護者および地域の子育て支援	特別な配慮を必要とする子どもをもつ親への支援・ひとり親家庭への支援 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
8	保育士に求められる基本的態度	保育士の役割と専門性 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
9	家庭の状況に応じた支援	家庭の状況に応じた支援、専門機関と地域活動 事前学習：家庭の状況について調べる。
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関の連携	多様化する家庭支援のニーズと家庭支援の方法を学ぶ。 事前学習：自治体が行っている家庭支援について調べる。
11	子ども家庭支援の内容及対象	子ども家庭支援における実態 事前学習：子ども家庭支援の実態を調べる。
12	保育所における子育ての家庭支援	保育所における乳幼児期の子どもをもつ家庭支援の実践 事前学習：待機児童の状況を調べる。
13	地域の子育て家庭支援	地域の子育て支援センターにおける乳幼児期の子どもをもつ家庭支援の実践 事前学習：在住している地域の子育て支援について調べる。
14	要保護児童等及びその家庭に対する支援	要保護児童とその家庭への支援の課題 事前学習：要保護児童について調べる。
15	子ども家庭支援の現状と課題	子ども家庭福祉の政策の現状と課題 事前学習：配布資料を読む。

《専門科目》

科目名	子ども家庭支援の心理学				
担当者氏名	友澤 加代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

目の前の子どもを理解する時に、その子を取り巻く最も身近な環境である家庭の影響を無視することはできない。この授業では、まず乳幼児期から老年期にかけての生涯発達に関する基礎知識をふまえ、家族それぞれのライフステージを想像できるようにする。その上で、現代社会における家族・家庭の意義や機能、子どもの心身の健康と保健、精神疾患や障害について学び、保育者としての家庭支援を考える力を身につける。

《授業の到達目標》

子どもの現在の姿を形づくっている発達や家庭環境を理解し、子どもや子どもを取り巻く人々の発達と健康を支援する手立てを考えつく力をつけることを目標とする。生涯発達、家族機能、心身の健康と保健の知識を総合して活用し、議論できるようになることが望ましい。基礎知識の習得だけではなく、事例をもとに多様な家庭支援の在り方を述べられるように視点を養い、他職種との連携にも応用できるようにする。

《成績評価の方法》

授業内の確認レポートおよび提出物（50%）、定期試験（50%）により総合的に評価する。

《テキスト》

毎回の授業で穴埋めプリントを配布。（試験はプリントから出題）  
下記の参考図書以外にも推薦図書を適宜紹介する。

《参考図書》

- ・本郷一夫・神谷哲司(編著)「シードブック 子ども家庭支援の心理学」建帛社 2019
- ・岡本祐子・深瀬裕子(編著)「シリーズ生涯発達心理学 エピソードでつかむ 生涯発達心理学」ミネルヴァ書房 2013

《授業時間外学習》

予習：次回のテーマに関連する資料を読み、疑問点をあげる。  
復習：授業で使用したプリントやワークシートを振り返る。  
レポート：講義した内容と自身の体験や身近な出来事を結びつけて考え、発達の視点や家庭支援に応用できることをレポートにまとめる。

《課題に対するフィードバック等》

小テスト、リアクションペーパーについては次回授業時にフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の進め方の説明 心理学的なものの考え方 家庭支援とは
2	生涯発達 乳幼児期から 児童期	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴
3	生涯発達 思春期から青 年期	思春期から青年期の発達の特徴
4	生涯発達 成人期から高 齢期	成人期から高齢期の発達の特徴
5	家庭支援の心理学	家族システムと家族発達
6	家庭支援の心理学	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達
7	家庭支援の心理学	子育て環境の社会状況的变化
8	家庭支援の心理学	ライフコースとワーク・ライフ・バランス
9	家庭支援の心理学	多様な子育て家庭への支援
10	家庭支援の心理学	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康
11	家庭支援の心理学	子どもの心と健康
12	家庭支援の心理学	障害のある子どもの理解と対応
13	家庭支援の心理学	災害と子ども
14	家庭支援の心理学	事例にもとづくディスカッション
15	まとめ	講義内容の振り返り 定期試験に関するガイダンス

《専門科目》

科目名	保育内容 総論				
担当者氏名	大久保 淳子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

本授業は、幼稚園・保育所・認定こども園において展開する保育の基礎的知識としての保育内容の歴史の変遷を学び、保育の内容と計画をするために、保育の意義とその重要性について学習することを目的とします。

《テキスト》

幼稚園教育要領解説 平成30年3月、文部科学省（著）  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月、内閣府 文部科学省、文科省、厚生労働省

《参考図書》

保育所保育指針解説 平成30年3月、厚生労働省

《授業の到達目標》

1. 保育所保育指針における「保育の目標」、保育の全体的構造、子どもを取り巻く社会的背景及び保育内容の変遷、保育の内容の基本について説明することができる。
2. 保育の多様な展開について具体的に述べることができる。

《授業時間外学習》

- ・事後学習として専門用語を覚える。
- ・課題のレポートを作成する。

《成績評価の方法》

小テスト（40％）・レポート（40％）・発表（20％）  
総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

小テストは実施後に回答を行う。  
レポートはコメントを記載し、フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の教育における見方・考え方	保育の全体構造と保育内容の理解 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
2	幼稚園の保育内容の変遷	幼稚園の保育内容の変遷 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所、関連のホームページを読む。
3	保育所の保育内容の変遷	保育所の保育内容の変遷 準備学習：保育所保育指針解説の関連箇所、関連のホームページを読む。
4	認定こども園の保育内容の変遷	認定こども園の保育内容の変遷 準備学習：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の関連箇所を読む。
5	保育の内容の基本的な考え方	養護及び教育が一体的に展開する保育 準備学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
6	遊びを通しての総合的な指導	遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
7	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
8	子どもの主体性を尊重する保育	子どもの主体性を尊重する保育 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
9	個と集団の発達を踏まえた保育	個と集団の発達を踏まえた保育 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
10	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（1）	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
11	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（2）	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と5歳児後半の姿（5歳児のDVD視聴） 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
12	保育記録と幼児を理解する力	保育記録の書き方と幼児を理解する力 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
13	保育の多様な展開（1）	長時間の保育・多文化共生の保育 準備学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
14	保育の多様な展開（2）	特別な配慮を要する子どもの保育 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
15	小学校教育との円滑な接続	小学校教育との円滑な接続 準備学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。

《専門科目》

科目名	子どもの健康と安全				
担当者氏名	並木由美江				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

乳幼児期の子どもの成長発達には著しい。しかし乳幼児期は抵抗力や免疫力も未熟で未発達であり、感染症などの病気や怪我などで健康を阻害されやすい。災害や虐待への対応も含めて、保育士として、子どもの健康と生命の保持・安全を保障するために必要な知識・技術を講義・演習を通して修得する。

《テキスト》

- 「保育者のための 子どもの健康と安全」 鈴木美枝子編著 創成社
- 「子どもの病気とホームケア」 日本保育保健協議会

《参考図書》

- 「保育のなかの保健」全国保育園保健師看護師連絡会
- 「保育のなかの事故」全国保育園保健師看護師連絡会

《授業の到達目標》

- ・保育者として必要な保健の基本的知識を学び、子どもの心身の健康の保持・増進が図れる実践力を身につける。
- ・子どもの生命を預かっている責任ある重要な仕事であることを自覚する。
- ・子どもを取り巻く環境（保護者・地域の子育て支援・学校との連携・医療や療育との連携）への取り組みの重要性を自覚する。

《授業時間外学習》

- ・授業で示される課題学習
- ・復習（翌週の授業の際に、前週のポイントの確認を行う）

《成績評価の方法》

- ・最終試験は、グループごとの総合演習試験（30%）
- ・毎回の授業内に作成したレポート提出（50%）
- ・グループ学習での取り組み（協力・連携姿勢）（20%）

《課題に対するフィードバック等》

- 学習上の注意
- ・演習では、Baby人形を使用するが、常に真摯に向き合うこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	望ましい成育環境と安全対策	先人に学ぶ成育環境とは 保健的観点を踏まえた保育環境 健康及び安全の管理5つのガイドライン
2	子どもの健康と保健活動の意義	保育のなかの保健 ヘルスプロモーションの考え方 多様性の理解 (事前学習)子どもの保健演習を学ぶにあたり、保育者として知りたいことは？
3	発育の計測と評価 子どもの発達の評価	身体計測を行い身体発育曲線にプロットし評価 発達スクリーニング記録用紙のチェック項目 (事前学習)自分の母子手帳の記載内容を見ておく
4	子どもの健康観察	日常生活における健康観察のポイント 保護者・職員との健康情報の共有 (事前学習)体温測定、脈拍測定、呼吸確認の仕方を調べておく
5	子どもの体調不良 症状の見方と対応	子どもによく見られる症状への対応(発熱・咳等) (事前学習)症状への手当 演習:ホットタオル、クーリング、タッピング
6	子どもの体調不良 症状の見方と対応	子どもによく見られる症状への対応(嘔吐・下痢・発疹・けいれん等) (事前学習)嘔吐処理の手順について調べておく
7	子どもの養護の仕方	子どもの養護の仕方、子どもの生活習慣への援助と教育 (事前学習)抱っこ・おんぶ・衣類の着脱・オムツ交換のポイント
8	感染症対策 衛生管理 予防接種	感染症の基礎知識「保育所における感染症対策ガイドライン」 (事前学習)感染成立の3要因と対策について調べておく 成人用予防接種手帳
9	子どもによくあるケガの 応急手当	子どもの発達とケガについて 危険性と手当 すり傷・切り傷・刺し傷の手当 (事前学習)ケガをした子どもへの声掛けについて考えておく
10	子どもによくあるケガの 応急手当	骨折・脱臼・熱傷・歯が抜けた・目の傷・耳や鼻に異物・鼻出血 等の手当 (事前学習)救急箱の中身、持ち歩き救急グッズはどんなものが必要か
11	保育の重大事故への対策 摂食のポイント	重大事故の起こりやすい活動とその対策 (事前学習)事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインを読んでおく
12	子どもの一次救命処置	保育現場での気道異物除去、心肺蘇生とAEDの使用をシミュレーションで実施 (事前学習)乳幼児の心肺蘇生とAEDの使用方を調べておく
13	個別的な配慮が必要な 子どもへの対応	アレルギー疾患や慢性疾患、障害のある子どもへの対応 エピペンの使い方 (事前学習)エピペンとはどんな時に使用するものか調べておく
14	危機管理：災害時の対応	災害を受けた子どもの反応 アレルギー疾患がある子どもの災害への備え (事前学習)自分の居住地のハザードマップを確認し、家族の避難計画を作成
15	子どもの保健演習の総合 理解	保育場面「こんな時どうする？」に対して、グループで役割を分担して発表 (事前学習)居住地域のホームページから育児や保育の関連機関を調べる

《専門科目》

科目名	社会的養護				
担当者氏名	田中 久子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

社会的養育の方向性が明確化され、2017年の「新しい社会的養育ビジョン」は、改正された児童福祉法の理念を具体化している。授業では、子どもが権利の主体であることを理解し、家庭養育優先の理念のもと、代替として社会的養育を推進していくことを学ぶ。前期授業の内容をより深めるため、子どもの権利、制度、政策の実際を討議、発表を通じて具体的に修得する

《授業の到達目標》

- (1) 社会的養護の基礎的内容について具体的に説明できる
- (2) 施設養護及び家庭養護の実際について説明できる。
- (3) 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際を述べることができる。
- (4) 相談援助の方法・技術について説明できる。
- (5) 子どもの虐待防止と家庭支援について述べるができる。

《成績評価の方法》

グループ活動・発表及びワークシートの評価50%、定期試験50%とし、総合的に評価する。  
60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ18  
相沢仁他編集「社会的養護」中央法規

《参考図書》

子どもによる子どものための「子どもの権利条約」小学館（小口尚子・福岡鮎美著）「ルボ虐待：大阪二児置き去り死事件」ちくま新書（杉山春著）今から学ぼう！ライフストーリーワーク（才村真理著 福村出版）  
福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語辞典」

《授業時間外学習》

- (1) 社会的養護に関わるニュースや身近な事象を常に意識しておくこと。
- (2) 各授業に参加するにあたって、事前に提示された課題を学習しておくこと。
- (3) 授業に必要な書物は問題意識をもって読了し、疑問点や検討事項をまとめておくこと。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業内で提出されたワークシートに対しフィードバックを行います。疑問点、質問については授業内及び授業後に受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの権利擁護	子どもの権利擁護の基本、演習を通して施設や養育者としての取り組み運営の理解 予習：教科書p2-12 復習：教科書該当箇所・ワークシート
2	社会的養護における子どもの理解	子どもの理解を深めていくためのアプローチを学び子ども及び家庭環境を理解する 予習：教科書p14-24 復習：教科書該当箇所・ワークシート
3	社会的養護の内容 日常生活支援	日常生活支援の実際を理解した上で事例分析を通じて支援の在り方の討議及び理解 予習：教科書p26-36 復習：教科書該当箇所・ワークシート
4	社会的養護の内容 心理的支援	心理的支援の目的と特徴、視点、実際を学び、その後、演習や事例を通しての理解 予習：教科書p38-48 復習：教科書該当箇所・ワークシート
5	社会的養護の内容 自立支援	自立支援の基本及び事例分析を通じて自分の常識だけでない視点での対策を学ぶ 予習：教科書p50-60 復習：教科書該当箇所・ワークシート
6	施設養護の生活特性および実際 乳児院等	各施設の特性や施設における援助方法を調べ、グループ内で討議し理解を深める 予習：教科書p62-72 復習：教科書該当箇所・ワークシート
7	施設養護の生活特性と実際 障害児施設等	児童心理施設、児童自立支援施設、障害児施設の特性や実際を演習形式で学ぶ 予習：教科書p74-84 復習：教科書該当箇所・ワークシート
8	家庭養護の生活特性および実際	家庭養護とは、保育に求められる役割を理解し演習形式で実際を学ぶ 予習：教科書p86-96 復習：教科書該当箇所・ワークシート
9	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントや自立とは何かを理解した上で自立支援計画作成の演習を行う 予習：教科書p98-108 復習：教科書該当箇所・ワークシート
10	記録および自己評価	記録の意義と役割、自己評価を学ぶ。演習を通して理解を深める 予習：教科書p110-120 復習：教科書該当箇所・ワークシート
11	保育の専門性にかかわる知識・技術・実践	保育士の位置づけを学び、演習形式で問題を抱えた子どもへの対応方法を学ぶ 予習：教科書p122-132 復習：教科書該当箇所・ワークシート
12	相談援助の知識・技術とその実践	ソーシャルワークの知識や技術を理解した上で演習を通して対応方法を学ぶ 予習：教科書p134-144 復習：教科書該当箇所・ワークシート
13	社会的養護におけるソーシャルワーク	「ソーシャルワーク」の意味、具体的に用いる知識・技術を演習を通して理解する 予習：教科書p146-156 復習：教科書該当箇所・ワークシート
14	社会的養護における家庭支援	社会的養護の持つ「代替養育」以上の機能を学び、演習形式で実際を理解する 予習：教科書p158-170 復習：教科書該当箇所・ワークシート
15	社会的養護の課題と展望	「社会的養護の課題と将来像」「新しい社会的養育ビジョン」を参考に未来への展望を考察。 予習：教科書p172-182復習：教科書該当箇所・ワークシート

《専門科目》

科目名	保育・教育相談支援				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

保育・教育場面における相談の意義と目的について理解し、保育・教育相談における今日の課題についてディスカッション等を通じて理解し、保育・教育相談に関する基礎的知識と技法を演習によって身につけ、保育者として相談に臨む基礎的態度を養う。また、保育者として職務を継続するためのメンタルヘルス向上のスキルを養う。

《授業の到達目標》

保育・教育相談の意義と理論を説明できる。  
 カウンセリングの基本的な知識について説明し、技法を用いて相談援助の実践ができる。  
 保育・教育相談の具体的な進め方を説明できる。  
 チーム援助の具体的な方法を説明できる。  
 自らのメンタルヘルス向上のスキルを身に付ける。

《成績評価の方法》

定期試験の得点を50%、授業内のワーク内容を30%、リアクションペーパーの記載内容を20%で評価する。  
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

使用しない。  
 必要な資料等は適宜配布する。

《参考図書》

児童育成協会(監修) 2019 新基本保育シリーズ19 子育て支援 中央法規  
 小橋明子(監修) 2020 子育て支援 中山書店  
 黒田祐二 2014 実践につながる教育相談 北樹出版

《授業時間外学習》

予習として各回で指示されたキーワードについて調べてくる(30分)。授業後はノートをもとめて理解を深める復習をすること(30分)。本授業は合計15時間の時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育における相談	保育場面における相談の意義と目的を理解する。＜授業外＞予習：「保育相談・教育相談の定義」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
2	3段階の援助サービス	学校心理学における3段階の援助サービスについて理解する。＜授業外＞予習：「開発的援助」「予防的援助」「問題解決的援助」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
3	多様な家族形態と子育て支援	現代の家族のあり方を学び、必要な子育て支援について理解する。＜授業外＞予習：子育て支援の形態について調べる(30分)。復習をする(30分)。
4	子育て支援における保育者の役割	子育て支援において保育者が果たすべき役割を理解する。＜授業外＞予習：「アセスメント」「カンファレンス」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
5	連携と協働	校内・園内での連携のあり方、外部専門機関との連携のあり方を理解する。＜授業外＞予習：「チーム援助」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
6	カウンセリングの基本理論	主要なカウンセリングの理論について理解する。＜授業外＞予習：「来談者中心療法」「行動療法」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
7	援助者に求められる基本的態度	援助者に求められる基本的な態度について理解する。＜授業外＞予習：「カウンセラーの3条件」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
8	カウンセリング演習	3つの聴き方を実践し、応答技法について学ぶ。＜授業外＞予習：「傾聴」「応答技法」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
9	危機介入	保育現場で遭遇する危機を学び、危機介入のレベルと外部連携について理解する。＜授業外＞予習：「発達の危機」「偶発的危機」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
10	保護者理解	保護者との関係作りの方法を学び、家庭への支援のあり方を理解する。＜授業外＞予習：「バーステックの7原則」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
11	特別なニーズのある子どもと家庭への支援	障害など特別な配慮が必要な子どもと家庭への支援のあり方を理解する。＜授業外＞予習：「インクルーシブ教育」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
12	虐待の理解と対応	虐待が子どもに及ぼす影響について理解し、被虐待児への対応を学ぶ。＜授業外＞予習：児童虐待の種類と内容について調べる(30分)。復習をする(30分)。
13	子育て支援の現状と課題	現代における子育て支援および保育・教育相談の課題を考える。＜授業外＞予習：「多文化共生社会」について調べる(30分)。復習をする(30分)。
14	保育者のメンタルヘルス	ストレスとの付き合い方を学び、メンタルヘルス向上のための方策を身に付ける。＜授業外＞予習：「ストレスマネジメント」について調べる(30分)。復習をする(30分)。
15	現場で求められる保育・教育相談とは	これまで学んだことを振り返り、子育て支援および保育・教育相談のあり方を考える。＜授業外＞これまでの授業ノートを振り返り整理する(30分)。復習をする(30分)。

《専門科目》

科目名	保育・教職実践演習				
担当者氏名	中村 敏男、武内 道郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育者として必要な基本的資質や能力が形成されたかについて確認するために、保育者としての自分のあり方について考え、不足する部分を補い、課題を見出し、保育者に求められる実践力を高める。

《テキスト》

必要に応じて授業担当者がプリントを配布する

《参考図書》

小田豊監修 中坪史典編著「保育・幼児教育方法論」建帛社 2009  
埼玉県幼稚園教育課程編成要領 2009

《授業の到達目標》

実習をもとに幼児理解の方法について考察を深める  
保育者に求められる資質について深く考察できる。  
実習中に行った実践について改善点を把握できる。  
実際の園行事等に参加し、保育実践力を身につけることができる。  
幼児を対象とした実践的活動の企画・立案・実践から応用力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

準備学習を十分に行い、必要に応じて参考文献を読んでおく。  
意欲的な発言・探究活動を重視するとともに、事後学習として省察内容の定着を目指す。

《成績評価の方法》

観察記録（授業内に行う演習・発表50%）及びレポート（中間、終了時50%）などに見られる学習成果を総合的に評価する。

《課題に対するフィードバック等》

本授業を履修できるのは、教育実習・保育実習・保育実習のいずれかを完了した者とする。  
レポートについては適宜フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育者としての使命	社会が求める保育者の資質、保育者の責務について考える 準備学習：1年次「保育者・教職原論」の関連項目を見直しておくこと
2	幼児理解	具体的な子どもの様子をもとに、幼児理解の内容や方法について考える 準備学習：実習中の子どもの様子で、気になった事案を抽出しておくこと
3	子どもの健康	実習の経験をもとに、こどもの健康についてどう考え、どのように対応するかを考える 準備学習：実習先の園の健康指導の状況を発表できるように準備しておくこと
4	遊びと発達	子どもの遊びの様子に注目し、子どもの発達について考える 準備学習：年齢ごとの一般的な子どもの発達の特性を見直しておくこと
5	保育における食育	食育の大切さや、指導上の留意点について考える 準備学習：実習中に行った食育の状況を発表できるようにしておくこと
6	障害児への理解と援助	様々な障害の状況を知り、障害児への対応や援助について学ぶ 準備学習：実習中の、特別な配慮が必要な子どもへの対応についてまとめておくこと
7	ことばを育てる	幼い子どもの言葉の実態を確認し合い、言葉の発達を支える関わり方について考える 準備学習：言葉の発達を促すための実習園の様々な工夫について発表の準備をすること
8	保護者との連携	保護者との連携の在り方、具体的方法についてロールプレイを通して学ぶ 準備学習：実習中、保護者との連携で気づいたことを発表できるように準備すること
9	保育における危機管理	実習の経験をもとに、保育における危機管理について考える 準備学習：具体的な「危機」の例を3つ考え、保育者の動きについて考えておくこと
10	クラス経営における担任の役割	実習の経験をもとに、担任の集団指導・個人指導の在り方について考える 準備学習：担任となることを想定して、不安に感じることを書き出しておくこと
11	保育者間の連携	実習の経験をもとに、日常の連携の在り方や、園の行事における保育者同士の連携の在り方について考える 準備学習：実習園での連携の状況を報告できるよう準備すること
12	幼保小連携の意義	幼保小連携の意義と小1プロブレムへの対応について学ぶ 準備学習：「小1プロブレム」の具体的な内容をインターネット等で調べておくこと
13	ストレスへの対応	専門職業人として、ストレスへの対応方法を学ぶ 準備学習：自分にとってどのような状況がストレスとなるか想像して書き出すこと
14	履修カルテ入力	後期の授業の省察と保育者としての課題を検討、履修カルテの意味を理解し入力する 事前学習：これまでの履修科目、現在履修中の科目をすべて書き出しておくこと
15	学び、成長し続ける保育者	よい保育者、学び・成長し続ける保育者となるためのポイントを考える 準備学習：保育者を目指した理由を思い出し、今後の課題を考えておくこと

《専門科目》

科目名	保育・教職実践演習				
担当者氏名	中村 敏男、武内 道郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育者として必要な基本的資質や能力が形成されたかについて確認するために、保育者としての自分の在り方について考え、不足する部分を補い、課題を見出し、保育者に求められる実践力を高める。

《テキスト》

必要に応じて授業担当者がプリントを配布する

《参考図書》

小田豊監修 中坪史典編著「保育・幼児教育方法論」建帛社 2009  
埼玉県幼稚園教育課程編成要領 2009

《授業の到達目標》

実習をもとに幼児理解の方法について考察を深める  
保育者に求められる資質について深く考察できる。  
実習中に行った実践について改善点を把握できる。  
実際の園行事等に参加し、保育実践力を身につけることができる。  
幼児を対象とした実践的活動の企画・立案・実践から応用力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

準備学習を十分に行い、必要に応じて参考文献を読んでくる。  
意欲的な発言・探究活動を重視するとともに、事後学習として省察内容の定着を目指す。

《成績評価の方法》

観察記録（授業内に行う演習・発表50%）及びレポート（中間、終了時50%）などに見られる学習成果を総合的に評価する。

《課題に対するフィードバック等》

本授業を履修できるのは、教育実習・保育実習・保育実習のいずれかを完了した者とする。  
レポートについては適宜フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	履修カルテ	履修カルテの意味を理解し、内容を省察し、今後の学習を見直す 準備学習：これまで履修したすべての科目について入力を済ませておくこと
2	実習の振り返りと再検討（課題の気づき）	これまでの実習の中で気づいた自らの課題を洗い出し、グループで討議する 準備学習：実習中に感じたり気づいたりした課題等についてまとめておくこと
3	実習の振り返りと討議（グループ討議の発表）	実習を通して把握した課題に対するグループ討議の結果を、テーマごとに発表する 準備学習：発表に向けて討議の結果を整理しておくこと
4	遠足引率実習の計画	園児を遠足で校外施設に引率するケースを想定した計画を作成する 準備学習：グループで検討するための内容を準備しておくこと
5	遠足引率実習（学びの内容）	遠足場面を想定し、実際に校外施設に行き、幼児の学びの場の観点で考える 準備学習：どんな学びの場が実施可能かについて準備しておく
6	遠足引率実習（安全の確保）	遠足場面を想定し、実際に校外施設に行き、幼児の健康管理・安全確保の観点で考える 準備学習：想定される危機管理等について準備しておく
7	遠足引率実習訓練（まとめ）	遠足引率実習のまとめと報告 準備学習：校外施設で感じた課題等についてまとめておく
8	実習報告会（発表資料の作成）	実習全体で気づいた点をグループでまとめ、1年生に伝える資料について検討する 準備学習：できるアドバイスについて考えておく
9	実習報告会（その1）	実習全体で気づいた点をテーマごとにグループでまとめ1年生に伝える（その1） 準備学習：効果的なプレゼンの方法、物品などを準備しておく
10	実習報告会（その2）	実習全体で気づいた点をテーマごとにグループでまとめ、1年生に伝える（その2） 準備学習：前回報告会の反省をもとに、プレゼン方法の改良を準備する
11	フィールドワーク・園行事（運営の実際）	園での行事・ボランティアへの参加し、行事等の運営の実際について学ぶ 準備学習：園へのアポイント、必要な準備を整えておくこと
12	フィールドワーク・園行事（保育者の動き）	園での行事・ボランティアへの参加し、保育者間の連携の様子等について学ぶ 事後学習：反省点などをまとめておくこと
13	フィールドワーク・園行事（まとめ）	行事の進め方、保護者・地域・保育者同士の連携の省察（園での行事・ボランティア） 準備学習：気付いた事、反省点などをまとめておくこと
14	部分実習の再検討（課題の気づき）	実習中の子どもとの関わりの場面で、指導者からの指導、記録をもとに課題を出し合う 事前学習：子どもと関わる場面に関する実習記録の内容を確認しておく
15	部分実習の再検討（討議と発表）	子どもとの関わりの中で、課題ごとにグループ協議することにより、解決の方策を探る 事後学習：子どもとのかかわり方に関する改善点をまとめる



《専門科目》

科目名	教育課程及び教育方法・技術論				
担当者氏名	中平 浩介、倉澤 俊夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の指導技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識、技術を身に付ける。幼児教育の現場におけるカリキュラムマネジメントの意味を理解できる。また、全体的な計画の中の各種行事の意義を理解し、実際に行事計画を作成し、実演する。そのことにより、行事の持つ意味、保育者の役割をつかむ。

《授業の到達目標》

子供たちの興味・関心を高めたり、学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。幼稚園・保育所等で実際に行われている園行事の意義、目的を理解し、実施計画を立案し、保育者及び園児を想定した、出し物を実演することができる。幼稚園教育要領の性格及び位置づけ並びに教育課程編成の目的を説明できる。

《成績評価の方法》

電子紙芝居の提出(30%)、電子紙芝居の発表(30%)、クリスマス会のグループ発表(30%)、たよりの作成(10%)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて適時説明プリントを配布する。

《参考図書》

《授業時間外学習》

授業に積極的に参加するとともに、完成度の高い作品が作成できるよう努力すること。毎日の授業について予習、復習(概ね1時間程度)の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

作成した作品や発表内容についてフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	電子紙芝居の概要(中平)	電子紙芝居とはどのようなものか。これまでの作品を見る。 準備学習:ペイントを起動し絵を描いてみる。
2	電子紙芝居作成で使用するソフトウェア(中平)	電子紙芝居を作るためのソフトウェア(ペイント・パワーポイント・エクセル)
3	電子紙芝居の計画(中平)	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成(案作成・完成までの計画作成)準備学習:どのような作品にするのかデザインを作成しておくこと。
4	電子紙芝居の作成1(中平)	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成(画面作り・部品作り)準備学習:作品のデザインや色彩などを決めておくこと。
5	電子紙芝居の作成2(中平)	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成(画面作り)準備学習:作品のデザインや色彩などを決めておくこと。
6	電子紙芝居の完成と提出(中平)	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成(完成・提出)準備学習:提出のためある程度作品を完成させておくこと。
7	電子紙芝居の読み聞かせ(発表)(倉澤)	3~5回に作成した電子紙芝居の読み聞かせ活動(実践)準備学習:発表準備をしておくこと。
8	電子紙芝居の読み聞かせ(発表)(倉澤)	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価(個人評価及び他者評価)準備学習:発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
9	電子紙芝居の読み聞かせ(発表)(倉澤)	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価(個人評価及び他者評価)準備学習:発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
10	電子紙芝居の読み聞かせ(発表)(倉澤)	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価(個人評価及び他者評価)準備学習:発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
11	園行事の実際(クリスマス会の活動)	クリスマス会の出し物の計画の作成(幼児用・保育者用)グループディスカッション準備学習:インターネット等を活用しクリスマス会について調べておくこと。
12	園行事の実際(クリスマス会の実際・発表)	グループごとの発表(幼児用・保育者用)・個人評価及び他者評価準備学習:リハーサルをグループごとに行っておくこと。
13	園行事の実際(クリスマス会の実際・発表)	グループごとの発表(幼児用・保育者用)・個人評価及び他者評価準備学習:リハーサルをグループごとに行っておくこと。
14	カリキュラムマネジメント・教育課程の実際	食育について学ぶとともに、幼児期からの食育の重要性を啓発する「食育だより」の作成 準備学習:インターネットで幼児期における食育の重要性について調べておく
15	カリキュラムマネジメント・教育課程の実際	幼児の健康(安全・安心)について学び、幼児の安全・安心に関するたよりの作成 準備学習:インターネットで幼児施設等の安全・安心について調べておくこと。

《専門科目》

科目名	保育のピアノ応用				
担当者氏名	山田 真澄、根岸 恭子、平峯 章生、渡邊 公実子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育の場での実践をより意識した、童謡の弾き歌いやピアノ曲演奏技術の学習を行う。  
本授業では、就職試験の準備や就職先への対応を意識した授業内容とする。

《テキスト》

- ・奥村恵美子他「子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1・2」音楽之友社 もしくは
- ・越智光輝「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ!」三恵社

《参考図書》

- (1) 進捗状況に応じて次の ~ より各自で用意する。  
ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社  
ソナチネアルバム 巻 全音楽譜出版社
- (2) 幼稚園、保育所等の実習で演奏する曲

《授業の到達目標》

- ・保育の場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を習得し、童謡の弾き歌いを5曲以上演奏できる。
- ・参考図書 もしくは のピアノ曲が1曲演奏できる。
- ・簡単な初見視奏ができる。
- ・指定された音階と主要三和音を弾くことができる。

《授業時間外学習》

授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つかった課題を解決する場と捉え、教員から提示された課題を自己学習して次の授業に備える（本授業では15時間の時間外学習が必要です）。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表50%、童謡弾き歌いもしくは初見視奏45%、音階と主要三和音5%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

童謡の弾き歌い発表および14週目を実施するピアノ実技成果発表について、実施後に改善点に関するフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学修の進め方 童謡の弾き歌いの練習	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲決定 童謡の弾き歌い、及び音階と主要三和音の練習
2	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
3	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
4	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
5	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
6	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
7	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
8	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
9	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
10	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
11	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
12	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
13	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏（ノーカット、リピートなし）および指定された音階と主要三和音の演奏。その後実技演奏の振り返り
15	童謡伴奏の習得、2年次 後期における学び	童謡の弾き歌いの発表、音階と主要三和音のまとめ 最終評価の確認

《専門科目》

科目名	子どもの体育				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

幼児期においては、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことにより、多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことが重要である。本科目では、運動遊びや運動の楽しさを体験するとともに、指導に必要な、身体能力・運動技能・運動活動への意欲を高め、合わせて自らの体力の向上と健康の保持増進を行う。各自が教材（動きや運動遊び、ルール）のアイデアを持ち寄り、紹介し合い、体験する。

《授業の到達目標》

幼児期の運動文化（運動遊び）を体験することにより、多様な幼児体育の活動について修得する。同時に、主体的な運動遊びの工夫と創造により柔軟な発想力や応用力を培う。

《成績評価の方法》

授業における提出課題（20%）、発表（20%）、授業への取り組み状況（意欲・主体性・積極性・運動量等）（20%）、学習ノート（40%）で評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは特に定めない。

《参考図書》

○幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ○荒木美那子 他編著：幼児の楽しい運動学習 ○池田裕恵編：子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」第二版 杏林書院 2018 ○前橋明著：0～5歳児の運動遊び指導百科 ひかりのくに 2016 ○岩崎洋子編：保育と幼児期の運動あそび 萌文書林 2018

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示した内容を行い授業に臨むこと。復習として、各回の学習内容について、授業で学んだことをノートにまとめるとともに、自分なりのアイデアを描き加えていくこと（本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の自主学習を行ってください）。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、コメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	移動運動	色々な移動運動を行う [準備学習]移動運動の種類を考えておく
2	子どもの体操	子どもの体操を通して、自身の体の各部位の動きを意識する [準備学習]ラジオ体操を行っておく
3	遊具を使わない遊び(1)鬼遊び	鬼遊びを楽しみ、子どもの鬼遊びについて考える [準備学習]どのような鬼遊びがあるか調べておく
4	遊具を使わない遊び(2)グループの鬼遊び	グループで行う鬼遊びを楽しみ、子どものグループの鬼遊びについて考える [準備学習]「グループで行う鬼遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
5	遊具を使わない遊び(3)ジャンケン遊び	ジャンケンを活用した遊びを楽しみ、子どものジャンケン遊びについて考える [準備学習]「ジャンケン遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
6	遊具を使わない遊び(4)2人組の遊び	2人組の遊びを楽しみ、子どもの2人組の遊びについて考える [準備学習]「2人組の遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
7	遊具を使わない遊び(5)力くらべの遊び	力くらべの遊びを楽しみ、子どもの力くらべの遊びについて考える [準備学習]「力くらべの遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
8	運動会(1)種目を考える	運動会の種目を考える(グループワーク) [準備学習]運動会の種目について、本やインターネットで調べておく
9	運動会(2)種目の紹介	考えた種目を発表する(グループワーク) [準備学習]発表に向けて準備しておく
10	地面に描いて行う遊び	地面に描いて行う遊びを楽しみ、子どもの地面に描いて行う遊びについて考える [準備学習]「地面に描いて行う遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
11	小さい遊具を使った遊び	ボール、フープ等を使った遊びを楽しみ、子どもの遊びについて考える [準備学習]ボール・ロープ・フープ等を使った遊びを調べておく
12	身近な物を使った遊び(1)紙バック	ブーメランをつつくて遊ぶ [準備学習]ブーメランの種類を調べておく
13	身近な物を使った遊び(2)折り込み広告	折り込み広告を使った遊びを楽しみ、保育への生かし方を考える [準備学習]折り込み広告を使ってどのような遊びができるか考えておく
14	からだ遊び(1)創作	言葉遊びを活用して動きを考える(グループワーク) [準備学習]「じゅげむ」を覚えてくる
15	からだ遊び(2)発表	創作したからだ遊びを発表する(グループワーク) [準備学習]発表に向けて練習しておく

《専門科目》

科目名	子どもと遊び				
担当者氏名	大久保 淳子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

本授業は、幼児期の発達の特性に配慮し、5領域を踏まえた「遊びを通しての総合的な指導」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意し、子どもの遊びを豊かに展開するための保育技術について検討する。さらに、指導計画の作成、適切な遊びの指導（援助）、教材研究（教材製作・その活用）について考察することを目的とする。

《テキスト》

幼児理解に基づいた評価(平成31年3月) 文部科学省

《参考図書》

「幼稚園教育要領解説」平成30年 文部科学省  
 「保育所保育指針解説」平成30年 厚生労働省

《授業の到達目標》

1. 子どもの発達を踏まえて、様々な遊びに関する適切な指導（援助）を具体的に説明することができる。
2. 「5領域のねらい・内容」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、子どもの遊びを豊かに展開する教材を提示することができる。
3. 保育技術を実践に活かすことができる。

《授業時間外学習》

子どもの時の好きな遊び・その遊びから学んだことを振り返る。

《成績評価の方法》

レポート（40%）、発表（40%）、小テスト（20%）  
 総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

- ・発表については、講評をします。
- ・レポート、小テストは、フィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	遊びとは何か	幼児の遊びの重要性について 事前学習：子どもの時の好きな遊び・その遊びから学んだことを振り返る。
2	幼児期における遊び	幼児期の遊びの重要性 事前学習：テキストの指定された箇所を読む。
3	遊びを通しての総合的な指導	遊びを通しての総合的な指導について理解する。 事前学習：テキストの指定された箇所を読む。
4	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼児理解と評価 事前学習：テキストの指定された箇所を読む。
5	遊びを豊かにする環境のあり方	指導案の環境構成を再考する。 事前学習：テキストの指定された箇所を読む。
6	0～2歳児の発達と遊び	0～2歳児の発達と遊びを知る。0～2歳児のDVD視聴 事前学習：0～2歳児の発達と遊びを調べる。
7	3歳児の発達と遊び	3歳児の発達と遊びを知る。3歳児のDVD視聴。 事前学習：3歳児の発達と遊びを調べる。
8	4歳児の発達と遊び	4歳児の発達と遊びを知る。4歳児のDVD視聴 事前学習：4歳児の発達と遊びを調べる。
9	5歳児の発達と遊び	5歳児の発達と遊びを知る 5歳児のDVD視聴 事前準備：5歳児の発達と遊びを調べる。
10	領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	科学遊びについて 事前学習：科学遊びを調べておく
11	領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	廃品遊びについて 事前学習：廃品遊びを調べておく。
12	領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	集団遊びについて 事前学習：集団遊びを調べておく。
13	領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	絵本・紙芝居・パネルシアター 事前学習：子どもの時、好きだった絵本（紙芝居）を調べる。
14	領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	集団遊びについて 事前学習：テキストの指定された箇所を読む。
15	まとめ 保幼小の連携・接続	接続期のカリキュラムについて 事前学習：テキストの指定された箇所を読む。

《専門科目》

科目名	保育のための調理基礎				
担当者氏名	田中 祐作、米澤 澄子、田中 辰也				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

子供と共に安全に調理することができ、将来の保育現場の食育に活かせる料理を学び、その活動の大切さを理解するために学修する。

《テキスト》

必要に応じてプリント配布

《参考図書》

高橋書店：からだに美味しい野菜の便利帳

《授業の到達目標》

調理をする上での衛生管理について説明できる。安全に正しく調理器具を使用することができる。簡単な調理作業を子どもに教えることができる。各授業で制作した料理のポイントと楽しさを伝えることができる。

《授業時間外学習》

復習を兼ねて毎回の授業の内容と学修記録として毎回の内容の感想をノートにまとめる。授業最終回にノートの提出を求めます。

《成績評価の方法》

評価は授業態度40% ノート・レポート提出30% 学修記録30%とし総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

実習時はエプロン・三角巾・指定靴を着用し、爪は短く切り、アクセサリは外して安全面、衛生面に十分注意して臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理実習の心得・実習室の使い方（田中辰）	手洗い等の衛生面、実習室の使い方、正しい包丁の持ち方について
2	食材と相性パン料理（田中祐）	色々な食材使いパン使用して発想と組み立て想像豊かさ学ぶ
3	基本生地【ショートペースト】について（米澤）	基本のクッキーを作り、焼成までを行う。可塑性油脂を使用した生地の注意点や作業の仕方を学ぶ。
4	アイシングデコレーションについて（米澤）	焼いたクッキーにアイシングを使用して飾りをつける。子供と一緒に調りの楽しさを学修する
5	一緒に楽しく作れる料理（田中祐）	好き嫌いをなくすアイデア料理を学ぶ。
6	食育に活用できるイタリア料理の献立（田中辰）	子どもと共同して作業できる、捏ねる・丸める等の工程を取り入れた献立
7	子供の簡単おやつ（武藤）	製菓のデザートを簡易にアレンジしたおやつの実習。プリン、パバロア、シューアラクレームなどの実習。
8	色彩りお弁当（田中祐）	お弁当箱の選び方・詰め方・適切な量・彩りについて学ぶ。
9	・	・
10	・	・
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・